



令和8年1月9日

## 令和7年中の火災件数が過去10年で最多 ～電気設備機器の火災件数は過去最多を更新～

令和7年中の火災件数の速報値が5,269件となり、過去10年で最多の火災件数となりました。

火災の出火原因別にみると、近年増加傾向にある「電気設備機器」が原因となった火災は2,129件発生し、これまでの年間最多である昨年の件数(1,781件)を更新し過去最多を記録したことに加え、例年、出火原因別上位の「放火(疑いを含む)」や「たばこ」の件数も昨年より増加しています。

また、住宅火災による死者(自殺を除く)は75人で、このうち約8割にあたる60人は高齢者(65歳以上)となっており、高齢者の死者数としては過去10年間で最多となりました。

空気が乾燥する12月から3月は火災が発生しやすくなっていることから、引き続き、出火防止対策及び火災を早期に発見できる住宅用火災警報器と火災の被害を抑える住宅用消火器等の設置・維持管理を呼びかけてまいります。

### 1 過去10年間の火災件数等の推移

(1) 火災件数は令和2年に記録した過去最少の件数から毎年増加しています。特に令和7年は昨年より751件増加(16.6%増)しています。(別添え1)

(2) 令和7年に電気設備機器が原因となった火災は2,129件発生し、昨年記録した過去最多件数を348件(19.5%増)上回り、火災全体の4割を占めています。(別添え1-2)

また、「放火(疑いを含む)」が原因の火災は747件発生し、昨年より82件増加(12.3%増)、「たばこ」が原因の火災は643件発生し、昨年より141件増加(28.1%増)しています。

電気設備機器とは、電気を使用する設備全体を総称したものです。令和7年に発生した火災2,129件のうち、最も多かったのがモバイルバッテリー等の充電式電池(244件)となっており、次いで差し込みプラグ(128件)、電子レンジ(114件)、コード(92件)、コンセント(88件)が上位5位となっています。

(3) 令和7年の住宅火災件数は1,982件で、過去10年間で最多となっており、住宅火災による高齢者の死者数とともに増加傾向となっています。(別添え1-3)

## 2 出火防止対策について

(1) 電気設備機器は、製品別に火災が発生しやすい原因を知り、出火防止対策をとりましょう。

特に火災件数が大きく増加しているモバイルバッテリー等の充電式電池は、落下等により衝撃を与えない、発熱など異常がある場合は使用をすぐにやめる等、出火防止対策をとるとともに、万が一火災が発生した場合には、火花や煙の勢いが収まったら大量の水等で消火し水没させる等、落ち着いて対応できるようにしましょう。（別添え2）

(2) 死者が発生した住宅火災の出火原因の内訳は、「たばこ」「ストーブ」「こんろ」が上位となっていることから、寝たばこは絶対にしない、ストーブの近くに燃えやすいものは置かない、調理中にこんろから離れない等、出火防止対策をとりましょう。（別添え2-2）

## 3 住宅用火災警報器の設置・維持管理（別添え3）

住宅用火災警報器は、熱や煙を感知し、警報音などで火災の発生を知らせてくれます。設置をすることで、火災にいち早く気づき、速やかな通報や消火、避難が可能になりますので、適切に設置をしましょう。

また、設置から10年を経過すると電池切れや機器の劣化で、いざという時に作動しない可能性があるため、定期的に作動点検を行い、設置から10年を目安に本体交換をしましょう。

## 4 住宅用消火器等の設置（別添え4）

消火器等の設置が義務付けられた防火対象物の火災において、消火器等を使用した場合の奏効率は7割を超えています。

消火器等による初期消火は、火災の被害軽減や抑制に効果的であり、また電気や油の火災にも対応することができることから、万が一に備え、ご家庭にも設置しやすいコンパクトサイズの住宅用消火器や場所を選ばないスプレータイプのエアゾール式簡易消火具等をご自宅内に備えましょう。

### 問合せ先

東京消防庁（代） 電話 3212-2111  
（令和7年中の速報値全体に関すること）  
企画課情報統計係 内線 2183、2185  
（火災件数等に関すること）  
調査課資料係 内線 5062、5066  
（住宅火災等に関すること）  
防災安全課生活安全係 内線 4195  
広報課報道係 内線 2345～2350

## 過去10年間における火災件数の推移

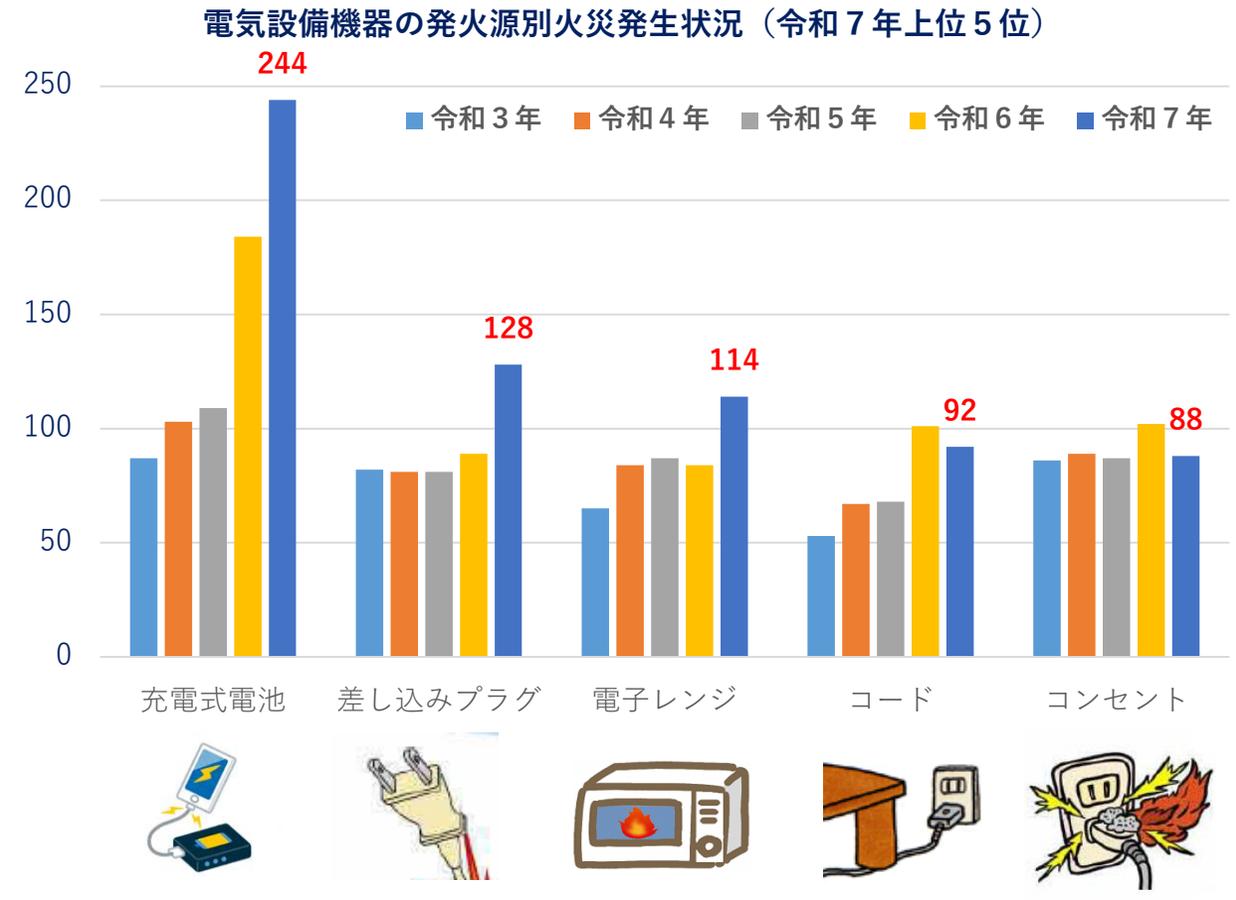
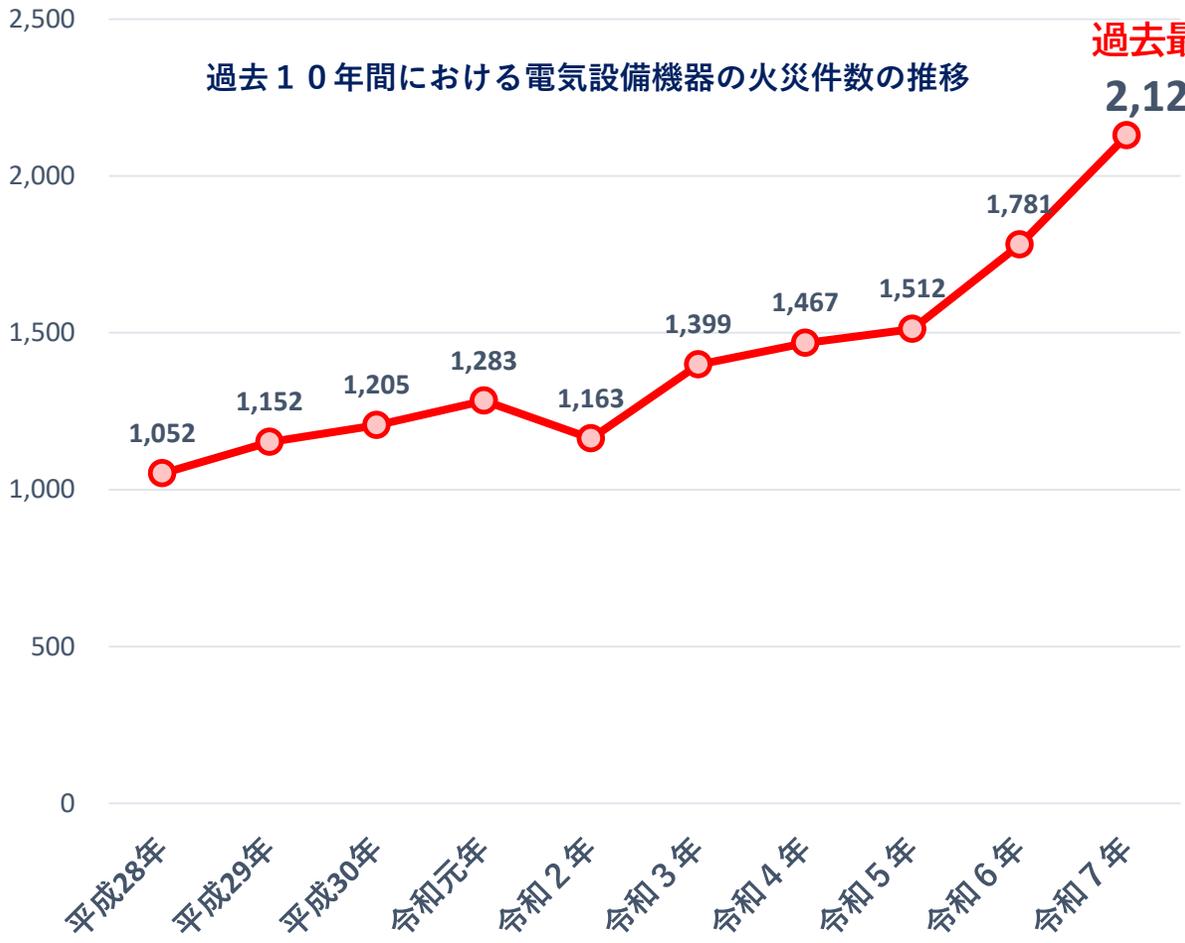
※令和7年の数値は令和8年1月2日時点速報値



- 過去最少の件数を記録した令和2年から毎年増加している。特に令和7年は昨年から急増している。

# 令和7年中の電気設備機器の火災発生状況等

※令和7年の数値は令和8年1月2日時点速報値



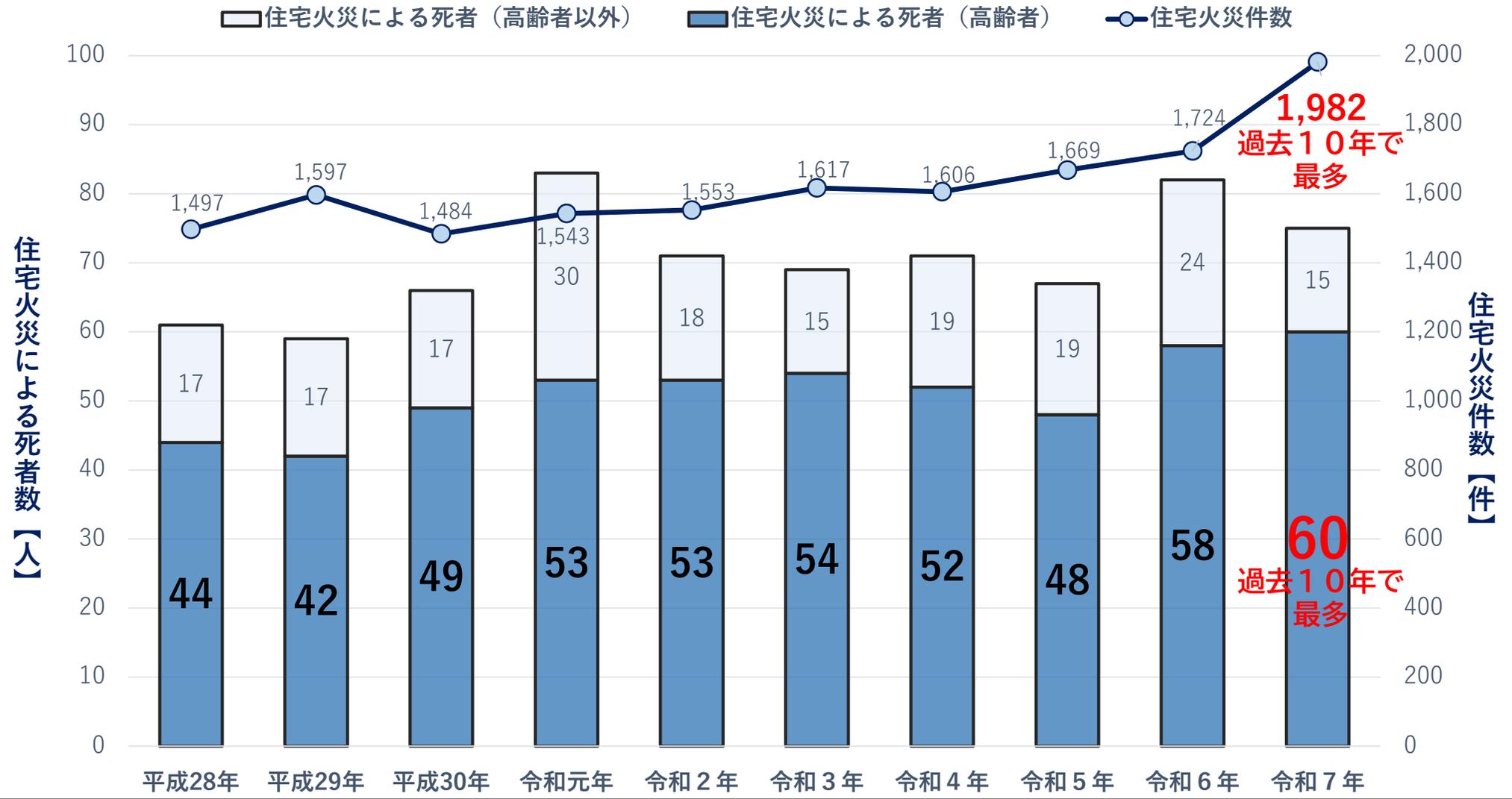
- 電気設備機器火災は近年増加傾向にあり、令和7年は昨年更新した過去最高値を更新し、初めて2,000件を超えた。これは、10年前の約2倍の件数となっている。

- 令和7年における出火原因別の上位5位は、順位の変動があるものの、昨年と同一の5つの原因となっている。
- 特にモバイルバッテリー等の充電式電池は、全電気設備機器火災のうち約11%を占めており、発生件数が急増している。

# 住宅火災による死者発生状況等

※令和7年の数値は令和8年1月2日時点速報値

※死者数は自殺によるものを除く



● 令和7年における住宅火災件数及び住宅火災による高齢者の死者数はともに過去10年で最多となっており、増加傾向にある。

## 充電式電池（リチウムイオン電池等）



- 衝撃を与えない、分解しない
- 燃えやすい物がない場所で充電する
- 指定された充電器を使用する
- 発熱など異常がある場合は使用をやめ、製造業者や販売店に相談する
- 熱がこもりやすい場所での使用は控える

## ▶ 万が一火災が発生したら

- 火花や煙が激しく噴出している場合は、近寄らない
- 火花や煙の勢いが収まったら、大量の水や消火器で消火する
- 大量の水で温度を十分に下げ、安全に配慮し、水没させる
- 119番通報実施

大量の水をかける      水没させる



動画はこちら



チラシはこちら

## 電子レンジ



- 冷凍食品などは包装の表示を確認してから加熱する
- 加熱時はその場から離れない
- 周囲に可燃物を置かない
- 加熱時間を長めに設定しない  
⇒ さつまいもや肉まんなどは、長時間加熱すると急速に燃焼する危険あり

## ▶ 万が一火災が発生したら

- 扉を開けずに電源遮断
- 扉を閉めたまま、庫内の様子確認  
※扉を開けると、燃え広がる危険大
- 火が消えなければ、消火器などを準備
- 119番通報実施

## 差し込みプラグ



## コンセント



## コード

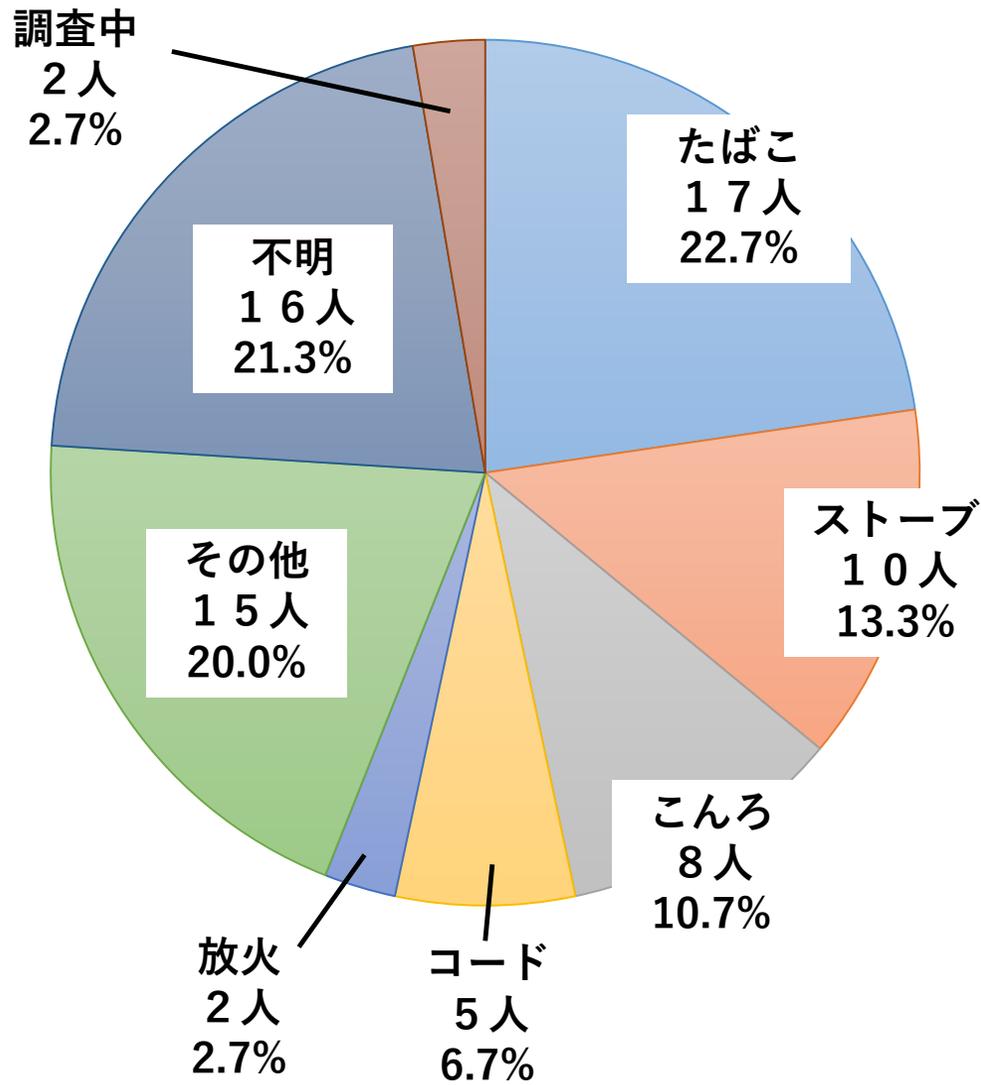


- 使っていないプラグは抜いておく
- プラグ、コンセントは定期的に掃除する
- コードは家具などの下敷き、折れ曲がりに注意する
- コードは束ねて使用しない

# 住宅火災を防ぐポイント

※令和7年の数値は令和8年1月2日時点速報値

死者が発生した住宅火災の出火原因の内訳（令和7年）



## たばこ



- 寝たばこは絶対にしない
- 吸殻を灰皿やごみ箱にためないようにする
- 吸殻を捨てる時は、必ず水をかけ完全に消火する
- 火種を落とさないよう安全な場所で喫煙する

## ストーブ



- 周囲に燃えやすいものを置かない
- 外出時や就寝時は必ず消す
- 給油は必ずスイッチを消してから行う
- ストーブの上や近くで洗濯物を乾かさない

## こんろ



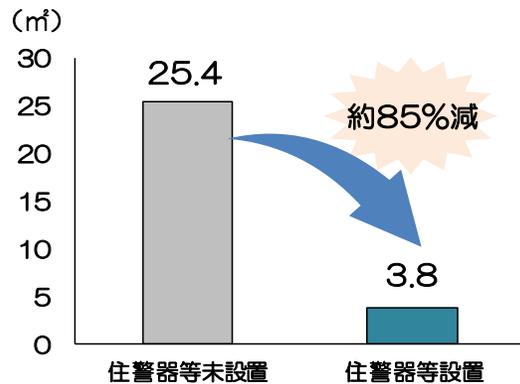
- 調理中にこんろから離れない
- こんろの周りに燃えやすいものを置かない
- 防災品のエプロンやアームカバーを使用する
- 火が鍋底からはみ出さないように調節する
- 安全機能付のこんろを使用する

※現在製造されている家庭用こんろは全て全口に調理油加熱防止装置、立ち消え安全装置、こんろ・グリル消し忘れ機能を有するSiセンサーこんろです

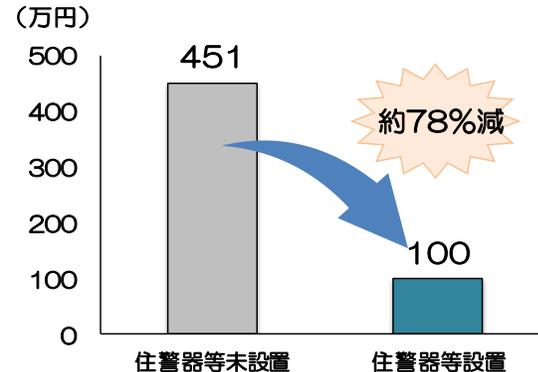
## 住宅用火災警報器の設置・維持管理

## 住宅用火災警報器等※による住宅火災の被害軽減効果

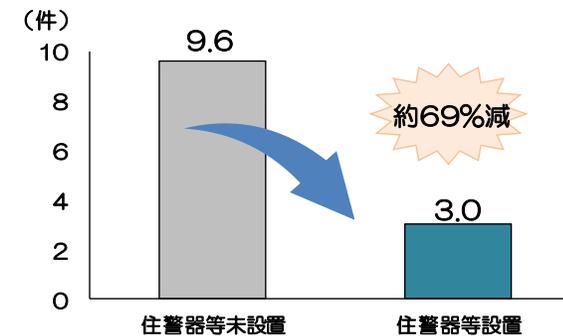
※自動火災報知設備等を含む



住警器等設置有無別の火災1件あたりの平均焼損床面積の比較 (令和6年中)



住警器等設置有無別の火災1件あたりの平均損害額の比較 (令和6年中)



住警器等設置有無別の火災100件あたりの死者発生火災件数の比較 (令和6年中)

- 住宅用火災警報器等の設置により、焼損床面積、損害額、死者発生などの被害が大きく軽減されている。

## 住宅用火災警報器の維持管理

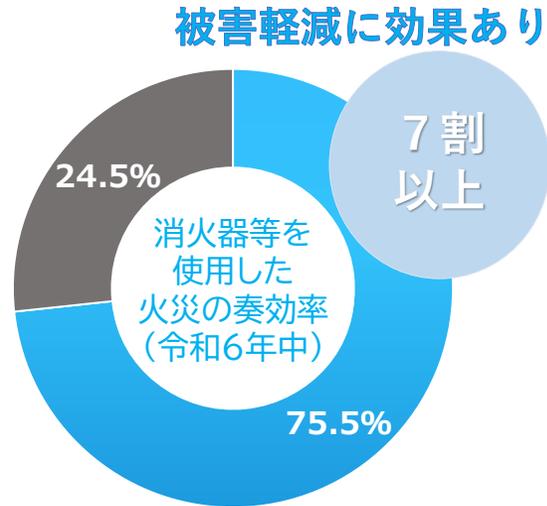


- 少なくとも半年に1回は、点検する。
- 古くなった住警器は電池切れや電子部品の劣化により火災を感知しない恐れがあるため、本体設置から10年を目安に交換する。



ティモンディの「住宅火災への備えやればできる！」30秒動画

## 消火器等による火災の被害軽減効果



- 消火器等の設置が法令で義務付けられている防火対象物の火災において、消火器等を使用した火災の奏効率は7割を超えている。
- 住宅においても、消火器、住宅用消火器、エアゾール式簡易消火具を備え、初期消火体制を確保することが重要



「持っていますか？マイ消火器  
30秒動画」

## 消火器等の種類

## 消火器

- 消火能力・使用範囲が優れている
- 耐用年数は約10年※
- 薬剤の詰め替えが可能



## 住宅用消火器

- ホースがないものもあり軽量かつコンパクト
- 女性やお年寄りでも使いやすく、火元を狙いやすい
- 耐用年数は約5年※



## エアゾール式簡易消火具

- ヘアスプレーなどの製品とほぼ同等の構造で小さく軽量なため使いやすい
- 耐用年数は約3年※



※耐用年数は製品ごとに異なる場合がありますので購入時に確認しましょう。